



洋書輸入協会会報

Vol. 27 No. 11 (通巻318号) 1993年 11月

理事会報告

10月27日(水)

(一) 9月分収支報告

10月14日(木)付、総務委員会で審議の総務委員長の報告を承認した。

(二) 洋書まつり報告

第25回洋書まつりは例年通り東京古書館で10月22日と23日に開催されたが、今回で最終回ということもあり、空前の出入とマスコミの取材があり、過去最高の売上を記録したことが服部委員長より報告された。

25年間、洋書まつりを指導された服部委員長に理事一同その労を心からねぎらった。

(三) 1994年度定時総会について

来年度の定時総会では、新規約に基づく理事改選と委員会改編の問題など例年より早めに準備を開始する必要があるとの総務委員会の要請があり、審議の結果、開催は5月中旬、場所は都内が適当であること、総会に向けての準備全般を総務委員会に一任することとした。

(四) 文化庁より日本出版取次協会宛に円高差益還元の依頼書が送付されそのコピーが当協会に“所要のご研究を”ということで同文化部より回付された。出席の理事にコピーを渡し参考とした。

海外ニュース

コレッツ社が £470,000 でフィリップ・ウィルソンへ

フィリップ・ウィルソン出版が最近明らかにしたところによると、先日破産に追い込まれたコレッツ社の債権者と同社の間にコレッツ社の売買に関する合意が成立した。コレッツ社はわずか47万ポンドの値がつけられる見込みである。

この価格では、債権者にとって負債£1につきわずか£0.24しか戻らないことになるが、管財人の提案した清算という第二の案よりは良い選択と言える。清算の場合は£1につき£0.07の戻りのみとなるからである。

今回の売買のうち、最も価値のある項目はコレッツ社のウェリンバラのウェアハウスで、36万ポンドに相当する。残る11万ポンドは現在も続けられているビジネスにつけられた値で、これによる昨年の売上は630万ポンドだった。唯一、今回の売買に含まれなかったのはコレッツ社最後の店舗となったロンドンのグレートラッセル通りの店である。18名の従業員はこのまま残ることになっている。

フィリップ・ウィルソンの副会長ラッセル＝コップ氏は、2社の統合が有益であることについて自信をみせており、コレッツのウェアハウスおよびその取次業務とウィルソン社のビジネスがミックスされることに多大な利点があると語っている。

理事会報告	1	洋書まつりの終りによせて	3	計 報	6
海外ニュース	1	洋書輸入協会史83	4	総代理店ご案内	6
まつりは終る	2	文化厚生委員会だより	6	東京の坂と橋と文明開化40	7
うちの会社	3	おしらせ	6	広 告	8

また、このほかにもコレッツとウィルソンがそれぞれの財産を持ち寄ることで利益となる分野がある。たとえばメール・オーダーの分野で、これまでコレッツ社のシステムでは赤字操業であったものをウィルソン社のダイレクトメールのコンピュータ化と統合することで、将来はより高い利益を得ることができるとラッセル＝コップ

氏は期待している。

今回の買収は、コレッツ社とウィルソン社の統合についてラッセル＝コップ氏と同様非常に熱心だったエイトキン・ヒューム銀行の融資によって可能となったものである。

—Bookseller '93年9月10日号より抜粋—

まつりは終る

国際書房 服部 貞夫

「このまつりが始まった頃、私はまだ生まれていませんでした。」10月22日朝、各社から集まった人の一人、若い女性の一言でした。成程26年とは長い、当初私は30代。

寄言全盛紅顔子 応憐半死白頭翁（ホントだ）。

2つの大戦の間が25年、説によると会社がよい仕事を続けてゆくのは10～20年が限度とか、その長い間（一年休みましたが）大きな事故もなく、毎年本を愛する皆様に来て頂いて洋書まつりを続ける事が出来たのはただ幸運だったからかも知れません。

昭和43年、時のジイサマ連（つまり今の私達の年代です。）から押しつけられて書生気分丸出しの連中が集まってやってのけた第一回。これで終りの筈が煽てられての第二回。若い頃はいい。大変だ大変だといひ続けながら誰もお祭りは嫌じゃない。御苦労様、御苦労様と言われ、多くの会社の熱い助力を受け、颱風や日本シリーズ（川上 VS 西本ですぞ）も何のその、夢中のうちに人口に膾炙、読書人の常識から普通の人達のイベントに、

最終回は朝も昼もラジオのニュース、締めくくりはNTVのニュースでバッチリ。その間、私達はお客に怒られ通し。何故やめるのか、これが何程皆の役に立っているのか判らないのか。一番応えたのはカソリックの方の「この様なよい行いを続けてゆく為に私達は何をしたらよいのでしょうか」の一言、胸にささりました。

売上げのスリップは1万をこし、発送した荷物は空前の数、やがて夜、本の好きな人達全部とお世話になりつづけた東京古書会館の皆さんに惜しまれつつ、まつりは最後の幕を降しました。洋書輸入協会自体、この次何時、この人達と会えるのでしょうか。

庶莫、毎回楽しみにして集まって下さった皆様、本を愛する人を又愛した協会の皆さんに最後のご挨拶を……。

役者は全て影法師 真（ホン）の主役はお客様
後最顧下しますならば お手を拝借願います。

……（拍手！）…… それでは皆様御機嫌よう。

長い間お客様の為、出品を続けて下さった各社、ならびに平成元年まで実に楽しく参加して下さいました 故村山元日賀社長に心から感謝いたします。

（最後のメンバー）原（原）日賀（宮下）フランス（西田）海外出版（野内）国際（寺島）そして丸善（松浦）



“本の町”神保町の一隅で、洋書の輸入を通して学問文化の発展に寄与せんと志して出発した我が社も、今では北海道から沖縄まで全国の大学・研究所からご愛顧を賜るようになり、お陰様で内外から社会科学専門洋書店としての評価をいただき、創立40周年を迎えることになりました。この間ご支援いただいたお客様や同業の方々に改めて感謝申し上げる次第です。

文献を一冊一冊積み重ねて行く商売の基本は変わりありませんが、この40年間にわが社の扱う商品も、古書・バックナンバー・リプリント・マイクロ、そしてビデオにCD-ROMとひろがり、メディアの進展の

多様さに驚かされます。

しかし、こうした画期的な変化や、「国際化時代の到来」の中で、「より速く正確な情報を提供する」ためのコストはますます増大する一方です。その上に「大学危機の時代」とも言われ大学の図書購入予算も減少傾向にあってまことに厳しい状況にあります。

わが社は、「お客様の必要な本を、より早くお届けする」ことをモットーに励んで来ましたが、厳しい状況の中でも今後ともこのモットーを失わず、40周年を新たな出発点にしていきたいと考えております。

洋書まつりの終わりに寄せて

洋書まつりが終わった。まつりの終わりという言葉はどうも寂しい響きをもってなにかしゅんと物哀しい。

昭和43年が第一回ということだから業界でベテランといわれる方々の多くは、何らかの形でこのまつりに関わりを持たれたことと思う。私もたまたまこのまつりの常連である丸善洋書仕入部に席を置いていた関係で、当初から関わりを持つこととなった。

尤も、最初の頃は断続的な間接参加で、単に搬入、陳列の助っ人に過ぎず、本格的に主催者側に参加したのは第20回からで、いわば丸善での晩年の時期であった。

齢五十路の半ばを越してのこのまつりの担当は、しかし想像以上に、ハードな作業を伴うことを身を以て知らされた。実際、搬入、陳列、当日2日間の販売と撤収、翌日の精算に至る4日間の一連の仕事は中々大変で、事前の準備を含め、よくぞこのまつりを25回も主催され、指導されたものだ、と、服部さん、原さん、その他常連の委員に頭の下がるおもいである。

奇しくも、協会の事務局からこのまつりのフィナーレを見送ったことで今、また、洋書業界のひとつの時代が終ったと、感慨ひとしおである。

さて、この洋書まつりが今回で最終回をむかえること

で、事業委員会でアンケートをとった返信が日日事務局に届くので、丹念に拝見させて頂いた。どの方も異句同音に、このまつりの終わりを残念がり、何とか形を変えて再開して欲しいという熱い思いが文面に溢れており、この熱烈なエールに、服部委員長が大変お困りであったと聞いている。

ところで、まつりの開催まえと当日、事務局宛に開催場所を尋ねる電話が100本以上あったこと、そしてアンケートに答えた文面から如何に多くの方々が洋書まつりを初めて知ったこと、或いは他の洋書バーゲンセールが存在を全く知らないことに考えさせられるものがあった。

場所を尋ねる人の中に、東京ブルジョア会館は何処かと日本語の余り得意とも思えない人が二三の例外では無かったことや、電話照会中まつりの開催をレジャー情報週刊誌“ぴあ”から知った若い女性が8割を占めていた事実も新しい洋書の市場と広がりを示すものであると思う。ただこのことで今後、各社独自の催事関係の情報媒体の利用にも新たな展開が求められるのではなからうかと思いを馳せた次第である。

服部委員長はじめ事業委員会の皆様長い間、本当にご苦労様でした。

事務局 神田 俊二

洋書輸入協会史 83

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

97 昭和37年度の輸入担保率引下げ運動とその成果

記

昭和37年11月14日

昭和36（1961）年までの輸入担保率の動きについては、洋書輸入協会史 No. 78 及び No. 79 所載の第 89 章（JBIA 会報 Vol. 27 No. 3 及び No. 4 参照）で述べたように、幾多の紆余曲折を経て昭和 36 年 9 月 18 日から、それまで 1 % であった担保率を 5 ～ 35 % に引上げ、同年 12 月 25 日から書籍及び定期刊行物の全品目に対して、一律 5 % が適用されるようになり、そのまま昭和 37（'62）年度に持ち越されている。

通商産業大臣 福田 一殿

洋書輸入協会

理事長 司 忠

書籍および定期刊行物に対する輸入担保率
引下げ懇請の件

昨年輸入担保率の引上げが実施されてから一年以上を経過し、漸く国際収支も順調に好転しつつあり、一般一部商品に対する輸入担保率の改正が実施されましたことは、当協会と致しましても前途に明るい萌しを見出したものと期待しておりますが、ここに書籍および定期刊行物に関する諸問題を検討し、一刻も早く現行輸入担保率を以前の最低率 1 % とし、定期預金又は銀行保証を適用し得る様復元させて頂きたく、御審議の程御願い申し上げます。

97.1 担保率 5 % を 1 % に引下げよう官庁への打診を開始

輸入担保率が 5 % となってから一年余を経過した昭和 37（'62）年 10 月、5 % の重圧にそろそろ耐えかねてきた会員の声を反映して、理事会で再び輸入担保率引下げの運動を再開しようということとなった。

書籍および定期刊行物は、自動承認制品目に指定されて以来凡そ 10 年を経ようとしたしており、その間の輸入量は年々僅かながら増加いたしておりますが、極めて安定したものでありまして、このことは出版物が文化資材としての輸入の重要性を明示するものであると同時に、学術の振興と産業の発展に直接寄与する商品として、需要が年々高まってきたものでございます。従って輸入担保率を引き下げても輸入が急増する可能性は皆無でありまして、安定した輸入が続くことは間違いございません。

10 月 30 日、丸善田辺、木下氏、日賀村山氏、洋販栗原氏、福本書院福本氏、教文館後藤氏、U. S. Asiatic 山川氏、海外高木氏、紀伊國屋相良、居田氏の理事一同が打ち揃って、商工会館第三会議室において通産省通商局の宮島、上杉、能勢事務官と懇談の機会を持った。この日は陳情議題のメインに輸入担保率の引下げを置き、併せて委託勘定と返品の問題を討議したが、後者の問題については種々と収穫や進展があったものの、メインの前者については頭から問題にされず、理事会側はいささか無然とした状態であった。しかし、それでも陳情書だけは提出しますよと反撃し、通産省側は出すのは勝手だがとの返事であった。

更に書籍および定期刊行物の小売価格につきましては、近年の諸物価、諸経費の値上がりにも拘わらず輸入原価値上りによりやむを得ず値上げしたものを除きましては、殆ど値上げをいたしておりません。小売価格の値上げにつきましては、大学・学校・官庁方面からの強い要望もあり、極力避けるよう努力いたしておりますが、ここ一年に亘る高い担保率は、当協会会員に経営上の重要な影響を及ぼし、これが不本意ながら小売価格の値上げを余儀なくさせる結果となることを、憂慮せねばならぬ状態に立ち至りました。

そこで早速陳情書の作成に取りかかっている。

一方特例として御承認頂いております官公庁購入図書に対する 1 % の担保率適用は、書籍および定期刊行物の輸入手続方法の実際面から実用困難な点が多いため、殆

97.2 輸入担保率引下げの陳情書を提出

上記の件は 11 月 7 日の協会懇談会に報告し、陳情文については理事会に一任との委託を受け、11 月 14 日に丸善田辺、木下氏と紀伊國屋相良の 3 名にて通産省通商局輸入課石丸事務官（担保率担当）を訪問し、下記の陳情書を提出した。同氏の話では、書籍、定期刊行物のみを単独引下げすることは不可能であるが、次の全体の再検討の機会に組み込むことを考えようとのことであった。

ど利用されていないのが実情でございます。即ち輸入承認申請が顧客を単位としたものでなく、取引先の出版社又は書店を単位として、大小様々な顧客の注文を取りまとめて発注するため、一件の輸入は「取引先から発送される貨物であっても、内容は異なった多くの顧客の注文した書籍が含まれている場合が多く、輸入承認申請に当たって官公庁のもののみについて独立した手続を取りますと、非常に煩雑な事務となります。

書籍および定期刊行物に関しましては、関係官署より常々御配慮を頂き、当協会員一同深く感謝致しておりますが、ここに重ねて特別の御取計らいをお願い致します。以上の諸点を御賢察の上善処下さいますようお願い致します。

(注) アンダーラインは筆者

97.3 輸入担保率1%に引き下げられる

上記の陳情書の提出前後の当局の感触から、当分の間は到底無理かと思われていた輸入担保率の引下げが、突然何の前触れもなく発表された。その内容は昭和37(’62)年12月18日付、JBIA No. 161-Aで次のように会員に知らされている。

記

輸入担保率引下げ実施について

去る11月7日に開催いたしました懇談会においてお知らせ申し上げました通り、書籍および定期刊行物に対し、担保率を昨年の引上げ以前の状態で復帰するよう要請し、11月14日付書面をもって通産大臣宛懇請書を提出いたしましたところ、今般12月3日付の通産省公報に引下げが発表され、即日実施されることになりました。

即ち、書籍および定期刊行物(輸入公表に指定されている語学学習用レコード、マイクロフィルムなどを含む15品目)……………1%

官公庁購入の書籍及び定期刊行物……………無担保

担保は、国債、日本国有鉄道の発行する鉄道債券、日本電信電話公社の発行する電信電話債券、定期預金証書または金融期間の保証状

なお同通産省公報には、1%適用の品目表が掲載されておりますが、カレンダー、日記帳、クリスマス・カード類、絵はがきは5%となっております。(以上)

どうしてこのように唐突な引下げ発表となったのかは分らない。しかし察するところでは、前年の昭和36年12

月に岩戸景気が終わっている、その少し前の9月に担保率が1%から5~35%に引き上げられて輸入が引締められていたのが、以後1年余のうちに急速に外貨事情が改善されたためであろう。その証拠としては、37年4月にAA範囲が拡大され(協会史 No. 81 所載、第94章 昭和37(1962)年度上期の輸入に関する発表参照)、同年9月には輸入品目の自由化率が88%となっている。

しかし世間の景気は依然として低迷し、10月には景気の谷底が来ている。12月10日の理事会でも、11月の入金はいずれも予定を大幅に下廻り、特に地方の入金が悪く各社とも苦しいとのことで、不景気が地方にまで浸透して来たのであらうとの観測がなされている。このように景気が悪いので輸入担保率を引下げ、貿易を活発にしようとする施策と受け取れる今回の措置であった。

97.4 輸入担保率のその後

この1%に引下げられた担保率は、昭和39(’64)年3月まで続く。それからまた5%に引き上げられ、業界としてはまたまた担保率引き下げの運動を展開しなければなくなるが、その間の経緯は稿を改めて記すこととしよう。

98 昭和37年度の展示会

98.1 第4回東京国際書籍展示会

昭和37(1962)年4月10日から15日まで、東京都立産業会館において頭記展示会が開催された。A. P. Wales Organizationがオーガナイザーで、ローカルマネジメントを日本出版貿易株式会社が担当している。

98.2 Permanent Exhibit of University Presses in Japan

昭和37(’62)年の9月から、協会理事会と東大出版会の箕輪氏及びFeffer and Simons, Inc.の信木氏との間で、米国の大学出版部の出版物を、東大出版会で常設展示する件につき、何度か会合を持ち話し合いが行われた。主として展示品を即売するかどうかの問題であるが、折り合いが付き実施に移されている。

98.3 ドイツ書展示会の準備

昭和38年秋にドイツ書の展示会を開きたいとて、昭和37年11月7日の協会懇談会の席上に、Dr. Müller-Römheldが出席、説明が行われた。

文化厚生委員会だより

第69回 72会ゴルフコンペ

武蔵カントリークラブ豊岡コース 1993.9.10(金) 参加者24名

ゴルファー泣かせの雨台風も去り、69回大会当日は久しぶりの快晴でした。早朝に霧で関越高速通行止めのハプニングもありましたが、1時間後には通行止めも解除され、車を飛ばして8時30分迄のスタート時間に全員集合ほっと一息。メンバーの日本出版貿易中林さんには大変ご迷惑をお掛け致しました。さて、武蔵カントリークラブ豊岡コースはフラットで全てのホールが沢山の松林や季節の樹木に囲まれた素晴らしい景観ですが、各ホール共距離も長く、グリーンは速くてアンジェレーションがあり、攻めるには大変勇気の必要なゴルファー泣かせのコースです。その中で最近実力を上げて来た丸善の中田さんが、午前中はパープレイ、午後は多少乱れてもスコアをまとめて、見事初優勝されました。2位

は医学書院の石原さん、1986年6月吉良C.C.で2位に入賞されて以来7年振りの快挙でした。(記:東亜ブック鶴)

成績表

			グロス	ハンデ	ネット	新ハンデ
優勝	中田	安昭(丸善)	97	18	79	13
2位	石原	隆良(医学書院)	110	28	82	25
3位	三宅	昭三(丸善OB)	93	10	83	9
4位	斉藤	純生(UPS社)	87	4	83	
5位	川野	順章(丸善)	104	18	86	

ベストグロス賞 斉藤純生(UPS社)

ドラゴン賞 和田 茂(大洋交易) 鶴 三郎(東亜ブック)

ニアピン賞 佐川美貴夫(三善) 竹村政彦(丸善OB)

(注:72会のルールは同ネットの場合は年令を優先しています)

お知らせ

下記のとおり社名および住所、電話番号の変更の連絡がありましたので、お知らせします。

(1993年10月18日より)

新社名:エム・アール・アイ ネットワーク株式会社

〒104 東京都中央区晴海3-2-22

晴海パークビル

Tel. (03) 3536-5849

Fax. (03) 3536-5850

代表取締役 佐藤 公久

NTIS サービス部長 徳永 礼

旧社名:株式会社 三菱総合研究所

情報サービス事業部

総代理店ご案内

(株)国際書房

Tel. (03) 3292-4951

Fax. (03) 3292-1171

ディヴィス:行政法論・第3版

Administrative Law Treatise. 3rd ed.

by Kenneth Culp Davis & Richard J. Pierce, Jr.

3 Vols. 1993(Little Brown) セット価:¥71,000.

(Expected in Dec. 1993)

訃報

(株)丸田書房 代表取締役社長 丸田達美氏は、病氣療養中のところ10月24日逝去されました。葬儀は10月27日鎌倉のカドキホールにおいて厳かに行われました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

本郷界隈の坂〔11〕

菊坂と菊富士ホテル (8)

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆ショーペンハウアー学者「増富平蔵」

宇野浩二『文学の三十年』にその変人ぶりが描写され、また広津和郎が『年月のあしあと』でもふれている増富平蔵は、大正5年頃より昭和4年頃まで13年ほど菊富士ホテルの住人であった。宇野浩二が菊富士ホテルに投宿した大正12年には、増富はすでにショーペンハウアーの名訳で知られていた学者であった。黄玄社という出版社がショーペンハウアーの著作集の刊行を計画し、東北学院の教師で天才的な語学者であった彼を東京に招聘して翻訳に当たらせた。今ではショーペンハウアー学者としての彼の名を知っている人は少なく（哲学者でも）、人名録ばかりか哲学辞典にさえ名前を見いだせないが、その業績は忘れることのできないものであったことが茅野良男「日本におけるショーペンハウアー」（『ショーペンハウアー全集』別巻）に述べられている。

彼の奇癖振りは近藤富枝女史が『本郷菊富士ホテル』に詳しく記しているので詳細はそれをお読みいただくとしてその一端を紹介すると、彼は病的な潔癖症で、たとえば釣銭を受け取るのにハンカチを使用したり、新聞や手紙は火箸で受け取って日光消毒や火鉢の火で消毒したり、トイレを使用するときには専用の足袋にはきかえ新聞紙を敷いて用を足し、手は丹念に洗ったあと最後に蛇口を絞ってもう一度指先をその細い水流で洗って後は触らずに帰るとか、ホテルの風呂は女性が入るのでいやがって近所の銭湯に行き、長い時間をかけて亀の子だわしで体のすみずみまで洗うとか、まことに豊富な逸話の持ち主でその性癖は徹底したものであった。また、調子外れの三味線をあたりかまわずかき鳴らしてまわりを閉口させる趣味をもっていたが、この趣味を通して、その頃三味線を習いだした宇野浩二と親しくなるきっかけとなり、二人で近くのお師匠さんのもとに三味線の稽古に通うことにまでなったという。

話が横道に入るが、宇野浩二の入居した大正12年といえば関東大震災の年であったことはいまさらいうまでもない。震災のあと、甘粕大尉に（最近疑問視する説もあるが）惨殺された大杉栄も一時菊富士ホテルの住人となり、大正5年から6年にかけて5カ月ほど滞在した。

彼が引っ越して来るや早速特高刑事の尾行がついてきたのは当然として、その刑事たちと仲良くなって、外出のときに刑事に荷物を持たせ、あぐくに食堂では支払いまでさせたり、また尾行中に見失わないよう刑事たちに行き先や予定の時間を知らせることもあったという。刑事たちもホテルの帳場に上がり込んで茶をすすったり、子供達を相手に遊んだりしたということである。大杉は丸善にも時折訪れたようで、そのときには尾行の刑事が外に立っているのが見られたと先輩社員から聞いたことがある。彼は、大逆事件で死刑した幸徳秋水の『平民新聞』で社会主義者として歩み出してから、明治・大正期日本の代表的なアナキスト、サンディカリストとして際立った活動家であったというだけではなく、私生活も破天荒で、妻がありながら菊富士ホテルには伊藤野枝（平塚雷鳥の始めた『青踏』の編集を行っていた女性運動家）と一緒に移り住み、風呂も一緒に入るほどの愛しようであったらしいが、彼の提唱するフリーラヴが破綻して相手の一人であった神近市子に首を刺されてようやく一命をとりとめた「日蔭茶屋事件」は有名な事件であった。その波瀾の半生を綴った『自叙伝』を読むとき、彼のすさまじい生きざまに暗然たる思いがしたものである。

さて、増富が大正2年に『随想録』を翻訳刊行したときには『時事新報』が「訳書の正確にして力強きは、原著の面影を髣髴せしめて遺憾なく、近来出色の訳書と謂うべし」（近藤富枝女史『本郷菊富士ホテル』からまた引き）と好評し、その後次々と上梓した訳業『処世哲学』（大正9年）、『人生達観』（大正13年）、『宇宙及人生』全3巻（主著「意志と表象としての世界」の訳で大正14年）、『因果論』（大正15年）など、いずれも大変評価された訳であった。

『洋書輸入協会会報』の「洋書こぼれ話」の中で、福本初太郎氏が明治のベストセラーのリストにショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』をあげているが、明治20年代後半から近代日本における思想や文芸に与えたショーペンハウアーの影響は大きかった。これを機会にショーペンハウアーの受容の様子をたどってみるのも何かの参考になるのではないかと思う。

8年余の歳月をかけて完成した一大コレクション!!

マイクロ・フィッシュ版 国際法研究文献コレクション

International Law

Editor: Prof. W.E. Butler, University of London

(IDC) -NE-

3,283タイトル、13,982フィッシュ 全巻特価 1,074万円

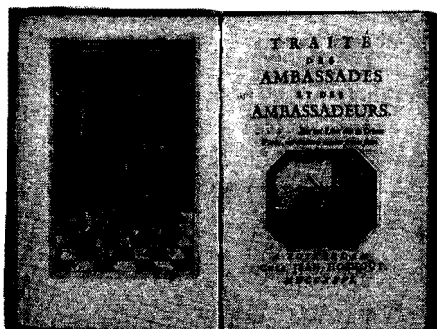
オランダの世界的マイクロ出版社であるIDC社は、1984年以来ロンドン大学W.E. バットラー教授を中心として国際法に関する一大コレクションのマイクロ化を進めてきました。

8年有余の歳月をかけ、国際法の創始者と仰がれる17世紀H. グロティウスの時代から20世紀の初頭に至る迄の古典的文献、歴史的条令、条約集、手稿など現在入手の難しい文献、資料を網羅、集大成しました。

文献の選択にあたっては、国際法分野の最初の体系的書誌目録、Marquis de Olivart の“Bibliographie du droit international, 1905-1910, Paris”を基本に権威ある国際法の文献目録より約3,200タイトルを選んでいきます。

対象になった原書はハーグのPeace Palace Library, Library of University of London 及び Harvard Law School Library など国際法、国際政治学分野の豊富な蔵書を誇るヨーロッパ、北米の国公立・私立各図書館の協力をえました。

国際法、国際政治・外交、国際問題研究に携わるすべての大学図書館・専門研究室に必須のコレクションです。



※収録文献は17～20世紀にわたり、英、米、独、仏、イタリア、ポルトガル、スペインから一部日本にまでおよんでいます。

全3,283タイトルの明細リストを用意しておりますので、詳しくはお問合せ下さい。

(注) 表示価格は税抜き価格です。消費税を3%別途申し受けます。

日本総代理店



株式会社 紀伊國屋書店

(新館) 〒156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号

電話問い合わせ先

(03)3439-0161

商品企画課

1993年11月 通巻第318号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本総合印刷株式会社